

(15) 都市ガス業

18 / 17 19 / 18 伸び率10%以上 ● 伸び率0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

(1) 都市ガス需要動向

平成18年度の都市ガス大手 3 社のガス販売量は、前年度に比べ724百万 (46MJ / 換算。以下同じ。)増加し、25,148百万 (前年度比3.0%増)となる見込み。

これを用途別に見ると(平成19年度供給計画ベース) 業務用は、新規需要の開発や既存物件の順調な稼働及び空調需要の増加等により、前年度比4.4%の増加。家庭用は、需要期である冬場の気温が高めに推移したことによる給湯・暖房需要の減から同0.8%の減少の見込みである。

平成19年度のガス販売量については、家庭用・業務用ともに積極的な需要拡大努力を織り込み、全体としては前年度比3.6%の増加を見込んでいる。

(2) 中期の見通し

ガス販売量については、他燃料との競合の激化等厳しい環境にあるものの、家庭用では、床暖房等の生活質的向上に伴う新たな需要、都市ガスの一層の普及拡大を図っていくことを前提に、また業務用については、地球温暖化対策への対応とし環境性に優れる都市ガスのビル冷暖房・コージェネレーション分野での利用の拡大・促進、発電分野における需要拡大等の販売努力を考慮した結果、今後 5 年間(平成19年度から23年度まで)の年平均伸び率は、家庭用0.8%の増加、業務用3.0%の増加と全体では2.5%の増加が見込まれている。

(3) 企業業績

都市ガス大手 3 社の平成18年度決算は、経常利益が2,273億円となり、前年度と比較して25.6%の増益となる見込み。

これは、家庭用、業務用ともに販売量が増加することから売上高は2兆3,539億円、前年同期比9.4%増に対し、経常費用は原材料費が安定供給の確保から増加となること等により2兆1,626億円、同8.2%の増加となる見込み。

2 . 設備投資動向(グラフ 1 参照)

(1) 平成18年度実績見込額

18年度の設備投資実績見込額は、積極的な保安投資等に加え、比較的大規模な投資が見られたことから、H17FY-H18FY共通回答企業ベース25社では、前年度に比べ104億円(前年度比4.3%)の増加となった。

(2) 平成19年度計画

19年度の設備投資計画額は、天然ガスシフトの推進に伴う生産能力の増強及び安定供給の確保を中心に総額2,715億円(調査対象25社)で、前年度に比べ191億円(前年度比7.6%)の増加を計画している。

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

都市ガス業は、調達資金の殆どを天然ガス設備等の設備資金に充当している。
なお、平成18年度の投融資の資金調達に占める割合は27.9%となっている。

(2) 長期資金調達動向

平成19年度の設備資金等の調達計画は、必要資金の計画額に対し、内部資金から69.2%、社債・借入金等の外部資金から30.8%の調達が計画されている。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

